

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構

NICT 先端研究

92

多数の組み込み機器がネットワークに接続するInternet of Things (IoT)モノのインターネット)と呼ばれるシステムの開発には難しさが伴う。その原

因の一つが、コンピュータで使うと、他の通信手段階できちんと動作く、不具合の要因を特定しにくい。ター外の物理的な環境機器による電波干渉や確認をすることが肝要。境から影響を受けるこ人混みによる遮蔽な定しにくい。とである。ど、意図しないさまざしかし、さまざまな網羅的な条件での検証

例えば、IoTシステムでは機器同士の情報交換に無線通信を用いるものが多く、その後に不具合が生じた場合の不安定さが問題となる。検証段階では動作したが、実際に街

システムを検証する際には、機器周辺のさまざまな条件を再現する必要がある。さらに、周

システムを検証する際には、機器周辺のさまざまな条件を再現する必要がある。さらに、周

システムを検証する際には、機器周辺のさまざまな条件を再現する必要がある。さらに、周

システムを検証する際には、機器周辺のさまざまな条件を再現する必要がある。さらに、周

システムを検証する際には、機器周辺のさまざまな条件を再現する必要がある。さらに、周

システムを検証する際には、機器周辺のさまざまな条件を再現する必要がある。さらに、周

システムを検証する際には、機器周辺のさまざまな条件を再現する必要がある。さらに、周

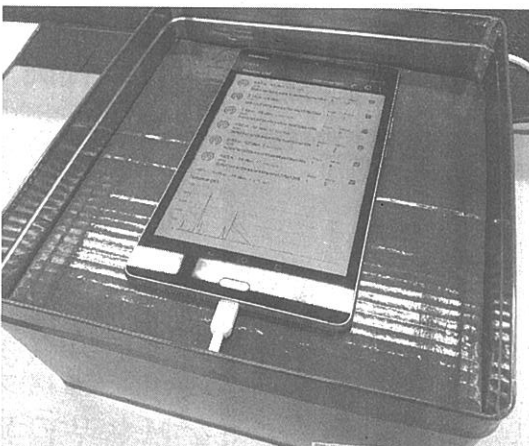
システムを検証する際には、機器周辺のさまざまな条件を再現する必要がある。さらに、周

総合テストベッド研究開発推進センター！
テストベッド研究開発運用室 研究員 湯村 翼

東芝、クウジツト、明治大学を経て15年からNICT勤務。ネットワークテストベッド、ユビキタスコンピューティングシステム、サイバーフィジカルシステムの研究に従事。



システム 検証 箱の中に電波環境再現



検証のためにBluetoothのさまざまな条件を再現する箱

この箱に検証対象の機器を置くだけで、利用シーンを再現した状況下で検証ができる。例えば、位置情報を利

近年では、実地での検証が危険な自動運転車やドローンの開発に活用した開発が広がる。情報通信研究機構(NICT)では、システム開発を支援する検証環境の研究開発を引き続き進める。

(火曜日に掲載)

科学技術・大学